

主体的・対話的で深い学びの授業実践 リフレクションシート (科目「簿記」)

授業実践の直前と直後において、生徒を3名抽出し、課題に対する思考や様子を比較し分析することで、生徒の変容を記述する。また、授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って、授業構想の振り返りを行う。そして、新学習指導要領における育成を目指す資質・能力の評価方法の課題を述べる。

抽出生徒の思考の変容		
生徒	課題提示直後の課題に対する思考や様子	授業実践終了時の課題に対する思考や様子
A	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高く、対話的な活動も積極的に行うことができる。 課題提示後も積極的にグループ内で中心となり、発言や意見の集約をするなどしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 分記法と3分法の違いを理解することができた。 商品に関する決算整理仕訳がなぜこのような仕訳になるのかを理解することができたことにより、与えられた課題をしっかりと解決することができた。
B	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲もあり言語活動は得意だが、仕訳の意味など理解が不十分であるため、誤答が多い。 課題提示後は、周りの意見を聞きながら、思考する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕訳の意味をグループで考えたことで理解が深まった。 商品に関する決算整理仕訳の方法をしっかりと理解することができたことにより、自信をもって課題に取り組んでいた。
C	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が低く、言語活動を苦手としている。 簿記の基本である仕訳のルールを理解できていないため、課題提示後も周りの意見を聞いているだけであった。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で他の生徒が出した意見を聞き、同調しているだけであり、グループ活動だけでなく、与えられた課題に対しても積極的に参加することができなかった。

授業構想のリフレクション	
課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標である「商品に関する勘定の決算整理仕訳の意味が理解できる。」については目標を達成することができたが、グループでの言語活動は想定よりも時間がかかることが分かった。 売上原価の仕訳を自分たちで考えさせる課題は難しいと感じた。教員の助言が必要である。
思考のための資料と想定される生徒の活動	<p>【資料1】分記法と3分法の違いについては、各グループで活発な対話が行われた。</p> <p>【資料2】売上原価の計算方法については、与えられた資料から積極的に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>【資料3】商品に関する決算整理仕訳では、なぜそのような仕訳が必要になるのかを深く考える姿勢が見られた。</p>
対話と思考(対話を通じた課題解決のプロセス)	<ul style="list-style-type: none"> 少人数のグループ編成にしたことで、対話は比較的スムーズに行うことができた。しかし、コミュニケーションが苦手な生徒が多いグループになると効果が見られない。 基礎科目の簿記では生徒が知識を身につけている途中であり、対話や思考を取り入れるのには難易度が高く、教員の単元の選択や教材研究など力量向上が不可欠であると感じた。 グループでの言語活動や自ら考える時間を設定したことで、深く学ぶよい時間となった。 対話的で深い学びには、ある程度の知識が身に付いていなければ成立しないと感じた。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> グループでの学習や、自ら考えたり、調べたりすることで理解も深まった。 基本的な知識が定着してからでないと、教員からの助言がないと思考することができないことが多くなってしまう。

新学習指導要領における資質・能力を評価するための課題	
① 知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> 理解度については、評価することは容易である。しかし、実社会で活用できる知識・技術が身につけているかを評価することは難しく、いかに実務で行われている例題を収集し、取り扱うかが問題である。
② 思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 評価については、定期テスト, 小テスト, ワークシートなどでの評価は容易ではあるが科目の特性上, 表現力を評価するのは難しく, 与える課題の準備がかなり必要になる。
③ 学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の取組を, 客観的に評価することは非常に難しいため, ワークシートや作品で評価する必要があると感じた。